

(3) 重度後遺障害者に対する援護 (療護センター)

(中期目標)

療護センターにおいては、遷延性意識障害者に対し、質の高い治療・看護を実施するとともに、医学的観点から公平な治療機会の確保を図りつつ、必要な措置をハード・ソフト両面において実施し、治療効果を高めること。

(中期計画)

遷延性意識障害者に対し、病棟ワンフロアシステム、プライマリー・ナーシングや高度先進医療機器による高度な治療・看護を実施することにより、中期目標期間中に脱却者 30 人以上（認可法人時の直近 4 ヶ年平均年 9 人）とするなど、治療効果を高める。

(年度計画)

引き続き、遷延性意識障害者に対し、病棟ワンフロアシステム、プライマリー・ナーシングや高度先進医療機器による高度な治療・看護を実施し、中期目標期間における平成 18 年度までの脱却者数を 30 名以上とする。

年度計画における目標値設定の考え方

中期目標期間における平成 18 年度（最終年度）までの脱却者数を 30 人以上とすることとした。

実績値

- 各療護センターは、MRI、PET等の高度先進医療機器による高度な治療を行うとともに、ワンフロア病棟システムによる集中的な患者観察や同じ看護師が1人の患者を継続して受け持つプライマリー・ナーシング方式による質の高い看護を行い、平成18年度までに64人を脱却させた。

脱 却 実 績 (単位：人)

年 度	平成15年度 (下半期)	平成16年度	平成17年度	平成18年度	15年度下半期 から累計
脱却者数	8	18	22	16	64

実績値が目標に達しない場合にはその理由

その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

（中期目標）

療護センターにおいては、遷延性意識障害者に対し、質の高い治療・看護を実施するとともに、医学的観点から公平な治療機会の確保を図りつつ、必要な措置をハード・ソフト両面において実施し、治療効果を高めること。

（中期計画）

質の高い治療機会を医学的観点から公平に提供するため、治療効果の観点を踏まえた入院や入院中の経過説明等入退院プロセスの構築を図るとともに、その他の医療機関との連携を図りつつ病床や高度先進医療機器の整備を進める。

（年度計画）

千葉療護センターに陽電子放射断層撮影装置（PET）を整備するとともに、平成17年度に策定したモデルケースに基づき、各療護センターにおける入退院プロセスの構築を図る。

年度計画における目標設定の考え方

- 千葉療護センターに陽電子放射断層撮影装置（PET）を整備する。
- 各療護センターにおいて入退院プロセスの構築を図る。

当該年度における取組み

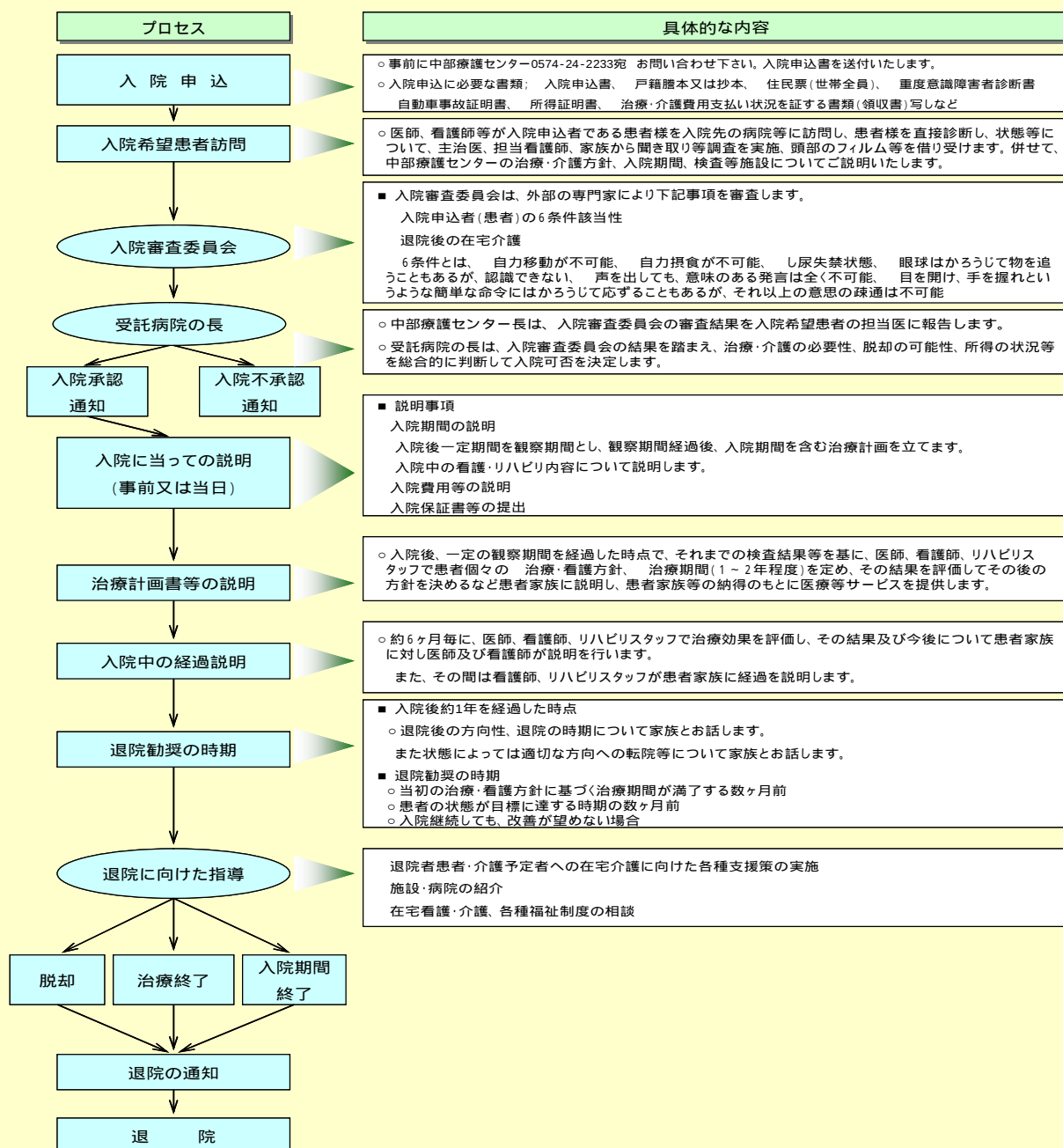
平成18年度における取組み

- ・千葉療護センターの陽電子放射断層撮影装置（PET）の整備については、平成19年3月に完了した。



- 各療護センターにおいて、質の高い治療機会を医学的観点から公平に提供するため、治療効果の観点を踏まえた入院や入院中の経過説明等の入退院プロセスの構築を図った。

(中部療護センターの例)



その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

（中期目標）

療護センターにおいては、遷延性意識障害者に対し、質の高い治療・看護を実施するとともに、医学的観点から公平な治療機会の確保を図りつつ、必要な措置をハード・ソフト両面において実施し、治療効果を高めること。

（中期計画）

短期入院事業において、入退院の状況を勘案しつつ、療護センターの有効活用を図る。

（年度計画）

東北・岡山・中部療護センターに加え、千葉療護センターにおいても入退院の状況を勘案しつつ短期入院事業を行い療護センターの有効活用を図る。

年度計画における目標設定の考え方

- 東北、岡山、中部療護センターに加え、千葉療護センターにおいても、入退院の状況を勘案しつつ短期入院事業を行い、療護センターの有効活用を図ることとした。

当該年度における取組み

平成18年度における取組み

- 短期入院事業については、東北・岡山・中部療護センターに加え、千葉療護センターにおいても短期入院事業を実施し、下記のとおり短期入院患者を受け入れ、平成17年度より全体で218人日の増（千葉を除いた3療護センターの計で108人日の増）となり、療護センターの有効活用を図った。

短期入院事業の受入実績

施設名	17年度受入人日（人数）	18年度受入人日（人数）
千葉療護センター	-	110人日（9人）
東北療護センター	47人日（4人）	42人日（3人）
岡山療護センター	39人日（5人）	88人日（11人）
中部療護センター	97人日（8人）	161人日（13人）
合計	183人日（17人）	401人日（36人）

（ ）内は受入人数

その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

（中期目標）

療護センターにおいては、遷延性意識障害者に対し、質の高い治療・看護を実施するとともに、医学的観点から公平な治療機会の確保を図りつつ、必要な措置をハード・ソフト両面において実施し、治療効果を高めること。

（中期計画）

メディカル・ソーシャルワーカーによる患者家族に対する支援や在宅介護者に対する介護に関する知識・技術の提供を推進する。

（年度計画）

引き続き、メディカル・ソーシャルワーカーにより、転院先情報の提供など患者家族に対する支援や、療護センターにおいて行う介護に関する知識・技術の情報の提供など在宅介護者に対する支援を強化する。

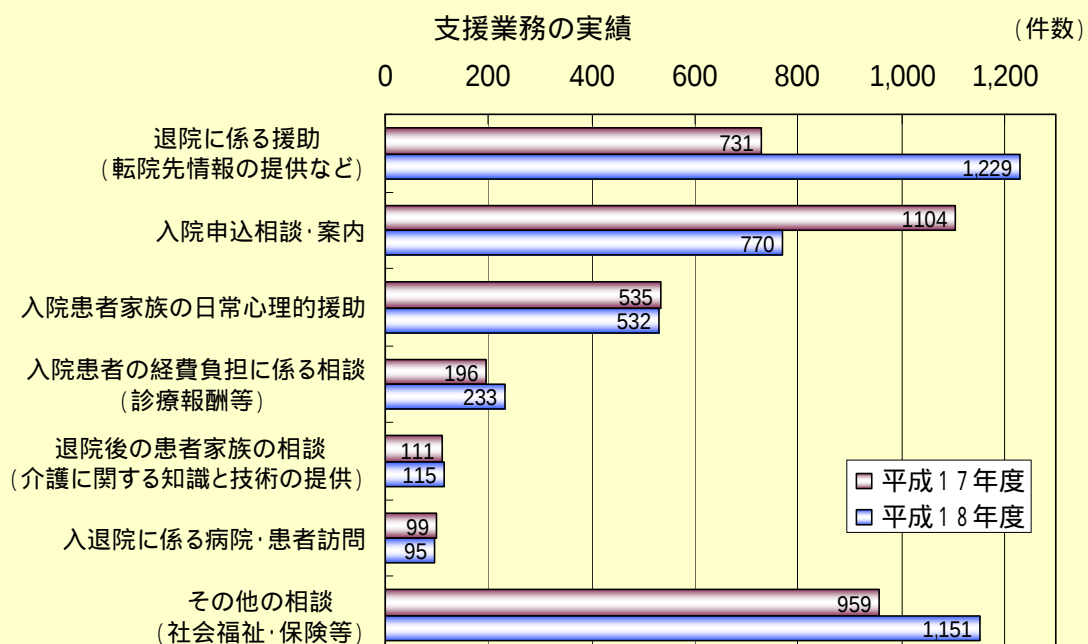
年度計画における目標設定の考え方

- 療護センターのメディカル・ソーシャルワーカーの専門的知識を活用して転院先情報の提供など患者家族に対する支援を実施することとした。
- 療護センターの行う介護に関する高度な知識・技術の情報を提供するなど支援を強化することとした。

当該年度における取組み

平成18年度における取組み

- 各療護センターのメディカル・ソーシャルワーカーは、患者家族に対する入院申込に係る相談・案内など入退院に係る4,125件(平成17年度実績3,735件)の支援を行った。



- 在宅介護支援として、機関誌「ほほえみ」に、酢水を使用した胃瘻チューブの汚れ防止や食事自助具を紹介し、在宅介護者に対する支援を行った。

— 「ほほえみ」による情報提供の例 —

千葉療護センター 主任看護師 「酢水を使って胃瘻チューブの汚れ防止」

看護婦さんより

酢水を使って胃瘻チューブの汚れ防止

千葉療護センター 主任看護師 沢田美穂・浅田裕子

胃瘻チューブの管理について、最近センターで行っていることに紹介したいと思います。胃瘻チューブは栄養までの機能がある。チューブの内面が汚れる。その状態で使っていると、内面の汚染が栄養の吸収に悪影響を及ぼす。そのため、チューブの内面を清潔に保つために、食後は酢水をチューブ内に注入しています。

【必要物品】

- ・ 4〜5mlの注射器
- ・ 100cc以上の容器

【方法】

1. 消毒
2. 注射器で酢水を注ぐ。

3. 胃瘻チューブのキャップを開け、注射器を接続する。

4. 酢水をチューブ内に注入。

5. チューブの口が汚れた状態のときキャップを開ける。

注意：酢水がチューブの内部につくことで、酢水で洗う必要はないので、早くから酢水で洗うようにしています。

中部療護センター 作業療法士 「食事自助具のご紹介」

介護方法の紹介

食事自助具のご紹介

本府記念病院、中部療護センター
リハビリテーションセンター
作業療法士 吉沢信代
中田哲也

【はじめに】

自動車事故による脳損傷によって様々な後遺症が残り、日常生活の動作が障害され、介護が必要となることも多く見られます。私たち作業療法士はその課題に対して後遺症の改善を図るとともに、残された能力を最大限に引き出すために動作の実行手段・方法の検討、環境整備や自助具の考案・作製などを行っています。

自助具とは日常生活で困難となっている動作を補い、可能な限り自分自身でできるように補助することで生活がしやすくなるよう工夫された道具のことを言います。

“食べる”という営みは栄養摂取や楽しみなどの観点から人にとって欠かせない行為であり、日常生活の動作の中でも重要な位置を占めています。そのため、食べることに困難な患者さんやそのご家族からは何らかしでも口から食べたい・食べさせたいという思いをよく耳にします。また、少しでも食べられる状態となればより多く、おいしく食べたい、少しでも自分力で食べ物を口に運びたいという希望へとつながります。これに対して看護師や言語聴覚士などとともに作業療法士はその人の残された能力を最大限活用し、それぞれの患者さんにあった自助具を提供し、患者さんやそのご家族の希望に応えられるように努めています。

そこで、今回は、食事の自助具についてご紹介し、市販されている自助具、我々が作成した自助具とその作成方法についてお話しします。

図2 ハルター型固定自在指がりスプーン

＜特徴＞

- ・ 持ちやすく握りやすい形状に自製で製作することによって、握る際に、握りやすくなる。
- ・ ハルター型の手柄には、握るための力が必要で、握る力が弱い手でも持つことができます。
- ・ ハルター型の手柄は、握る力が弱い手でも持つことができます。

図3 杖型固定スプーン（左） 右手持ち

図4 T字型固定スプーン（右） 左手持ち

＜特徴＞

- ・ 握る際に、握る力が弱い手でも持つことができます。
- ・ スプーンの柄に、T字型の固定スプーンを固定し、握る力が弱い手でも持つことができます。
- ・ 握る際に、握る力が弱い手でも持つことができます。

お持ちの方は50〜70歳の間に、握る力が弱い手でも持つことができます。

その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

（中期目標）

専門的診療・看護体制と高度先進医療機器を活用した治療・看護技術の開発・普及を図るため、研究成果の公表を行うこと。

（中期計画）

地元大学等研究機関や療護センター間の連携の強化、職場内研修の充実等により、プライマリー・ナースングや高度先進医療機器を活用した医療技術の開発・向上を図り、一般病院への普及を図るため、日本脳神経外科学会、意識障害治療学会等において年平均 10 件以上（認可法人時の直近 4 ヶ年平均年 7.3 件）の研究成果の発表を行うとともに、短期入院協力病院に対する実務研修等を行う。

（年度計画）

療護センターにおいて実施されている遷延性意識障害者に対する高度な治療・看護の技術を一般病院に対して普及させるため、引き続き、地元大学等との連携をとりながら 10 件以上の学会発表を行うとともに、新たに短期入院事業に協力する病院への働きかけとして実務研修等を実施する。

年度計画における目標値設定の考え方

- 療護センターにおいて実施されている遷延性意識障害者に対する高度な治療・看護の技術を一般病院に対して普及させるため、地元大学等との連携をとりながら、日本脳神経外科学会、意識障害治療学会等において 10 件以上の研究成果の発表を行うこととした。
- 短期入院協力病院に対する実務研修を行うこととした。

実績値

- 地元大学等と連携し、日本脳神経外科学会、日本意識障害学会において、22 件の研究成果の発表を行った。

学会発表の実績

学会発表の内容

学会発表の内容
ヘルメット型脳磁計に頭部挿入が不完全でも残存機能を評価できた遷延性意識障害例
東北療護センターにおける遷延性意識障害患者に対する音楽運動療法の経験
遷延性意識障害患者の皮膚損傷のヒヤリハット報告
重症頭部外傷患者の慢性期における機能改善—新しい評価表による治療効果の検討
慢性期における重症頭部外傷患者の機能改善—新しい評価スケールによる治療効果の検討
重症頭部外傷慢性期患者における抗てんかん薬投与の検討
レクリエーションがCUS患者前頭部の血流に与える影響
遷延性意識障害患者に対する用手的呼吸介助法の有用性

遷延性意識障害患者に対する集中的強化的眼洗浄の有用性
頭部外傷慢性期の知能低下における脳糖代謝統計学的画像解析
「脳外傷による高次脳機能障害」に対するMR Diffusion Tensor imaging とFDG-PETを用いた病体把握（シンポジウム講演）
び慢性脳損傷による高次脳機能障害と遷延性意識障害者の画像
頭部外傷慢性期の知能低下における脳糖代謝統計学的画像解析
遷延性意識障害者の随意運動に対する認知的介入としての音楽療法の効果
脳外傷認知機能障害に対する脳リハビリテーション
安全で楽しみとしての食事をめざして - クリスマス会でのスタッフによる劇 -
遷延性意識障害者へのアロマトリートメントの影響
交通外傷による遷延性意識障害者に対する鍼治療の試み
受傷から2年5ヶ月後、文字による質問に対しYES - NO反応が可能となった例
当センター作業療法の試み；ポータブルスプリングバランスを用いた上肢機能 訓練
反り返りに対しボールを用いた理学療法で抑制効果が得られた一例
遷延性意識障害者の膀胱機能調査

- 短期入院協力病院への実務研修を東北療護センターで1回（5名）、岡山療護センターで1回（8名）、計2回開催し、13名に対し実施した。

短期入院協力病院に対する実務研修

項 目	内 容
患者への対応	・ 看護計画、看護記録の作成方法 ・ 看護ケアの内容と方法 ・ 看護情報の収集と活用
看護実習	・ 口腔ケアの仕方 ・ 体位変換の仕方 ・ 介護器具、補助具等の使い方 ・ 入浴の仕方
家族への対応	・ 在宅介護者へのアドバイス ・ 家族のニーズの把握

実績値が目標に達しない場合にはその理由

その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

- 平成18年7月の第15回日本意識障害学会（会員数約1,000人）における療護センターの発表件数は、18件あった。なお、療護センターの発表者は、グループ研究を行っていることもあり、療護センター医療関係全職員の約3割強（延べ104人/303人）となった。
平成18年10月の第65回日本脳神経外科学会（会員数約4,100人）における療護センターの発表件数は、4件であり、療護センターの発表者は、療護センターの医師の約3割（6人/19人）だった。
- 平成18年の療護センターの研究成果の発表は、上記（22件）のほか、日本神経学会、日本看護学会等その他の学会等における発表が43件あった。
- 学会発表の他にも、遷延性意識障害の治療・介護について扱っている専門雑誌にも発表を行っており、平成18年度においては11件の掲載が認められた。

(中期目標)

地域医療への貢献として、高度先進医療機器の検査受診を行うこと。

(中期計画)

地域医療機関との連携を図り、年間 9,000 件以上(認可法人時の直近 4 ヶ年平均年 5,493 件)の高度先進医療機器の検査を受託する。

(年度計画)

引き続き、地域医療機関との連携を図り、年間 9,000 件以上の高度先進医療機器の検査を受託する。

年度計画における目標値設定の考え方

地域医療機関との連携を図り、年間9,000件以上の高度先進医療機器の検査を受託することとした。

実 績 値

- 各療護センターにおいては、地域医療への貢献として、MRI、PET等高度先進医療機器を活用した外部検査の受入れに努め、12,532件（対前年度比 134件、1.1%増）の外部検査を受託し、1億8100万円の収入を得た。

高度先進医療機器の外部検査件数

年 度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
外部検査件数	7,076 件	9,592 件 (下半期:4,787 件)	12,450 件	12,398 件	12,532 件
(参考)検査収入	91 百万円	137 百万円 (下半期:71 百万円)	194 百万円	161 百万円	181 百万円

実績値が目標に達しない場合にはその理由

その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

（介護料支給等支援業務）

（中期目標）

重度後遺障害者に対し、被害者の状況に応じた介護料の支給を実施するとともに、介護に関する指導助言等により、重度後遺障害者及びその家族に対する支援を強化すること。

（中期計画）

被害者の状況に応じた介護料の支給及び一般病院への短期入院費用に係る助成を行うことにより、効果的な被害者救済を図る。

（年度計画）

引き続き、被害者の状況に応じた介護料の支給及び一般病院への短期入院費用に係る助成を行うことにより、効果的な被害者救済を図る。

年度計画における目標設定の考え方

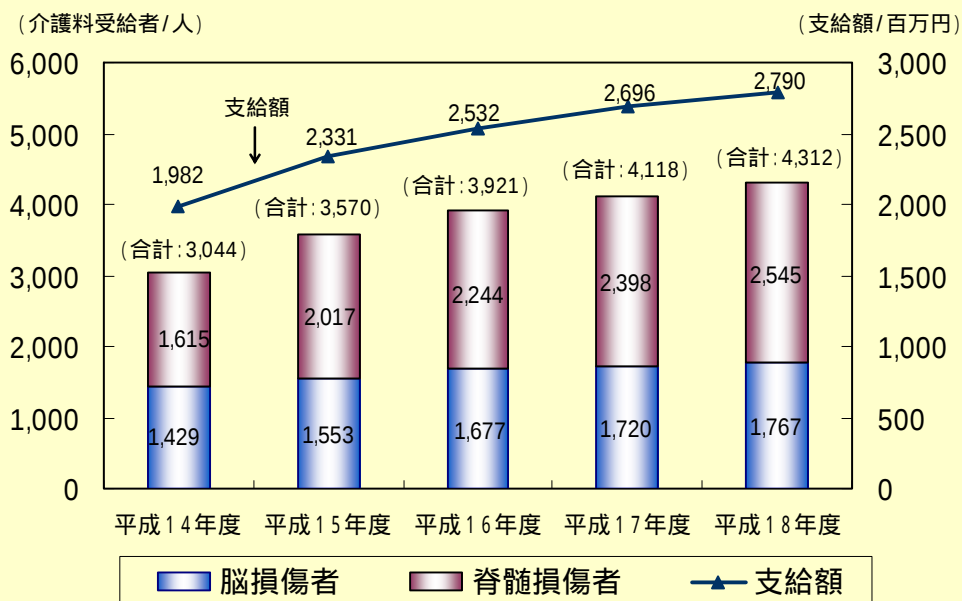
被害者の状況に応じた介護料の支給及び一般病院への短期入院費用に係る助成を行うことにより、効果的な被害者救済を図ることとした。

当該年度における取組み

平成 18 年度における取組み

- 後遺障害の程度、介護の状況に応じて計 4,312 人に対し、計 27 億 9,000 万円の介護料を支給した。

介護料支給実績



介護料支給制度

介護の程度		障害の程度	支給額等
最重度	特種	種のうち「最重度」であると認められた者	68,440円～136,880円/月
常時要介護	種	自賠法施行令別表第1の等級が第1級1号・2号	58,570円～108,000円/月
随時要介護	種	自賠法施行令別表第1の等級が第2級1号・2号	29,290円～54,000円/月

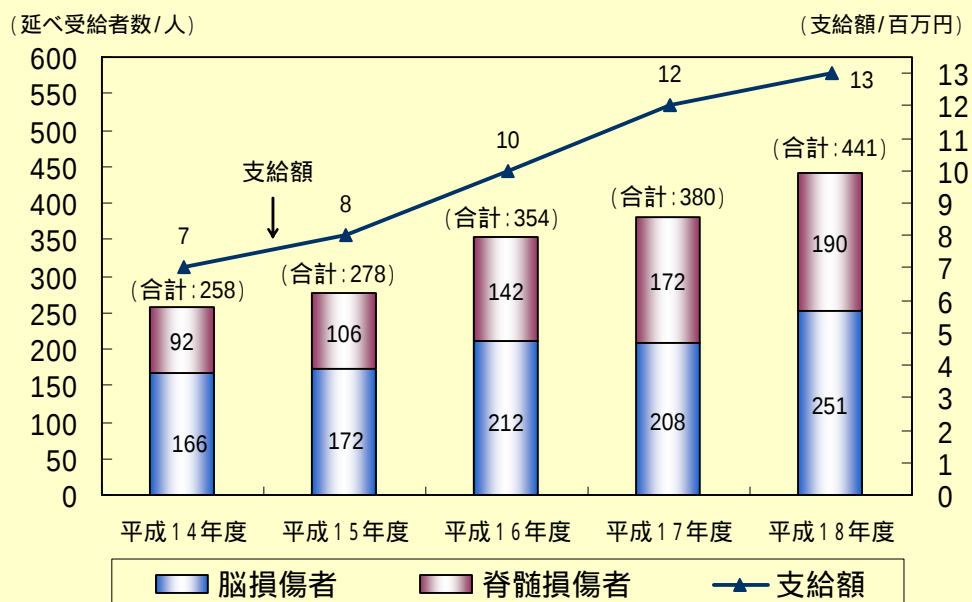
自賠責保険と当機構介護料との関連について

等級	自賠責保険 (平成14年4月1日以降)	自動車事故対策機構(介護料)
		特種 68,440円～136,880円 〔脳損傷〕 ・自力移動が不可能である ・自力摂食が不可能である ・尿尿失禁状態にある ・眼球はかろうじて物を追うこともあるが、認識はできない ・声を出しても、意味のある発言はまったく不可能である ・目を開け、手を握れという簡単な命令にはかろうじて応ずることもあるが、それ以上の意思の疎通は不可能である 〔脊髄損傷〕 ・自力移動が不可能である ・自力摂食が不可能である ・尿尿失禁状態にある ・人工介添呼吸が必要な状態である
(最重度)		
(別表第1)		
1級	1号 神経系統の機能又は精神に著しい障害を残し、常に介護を要するもの 2号 胸腹部臓器の機能に著しい障害を残し、常に介護を要するもの	種 58,570円～108,000円
2級	1号 神経系統の機能又は精神に著しい障害を残し、随時介護を要するもの 2号 胸腹部臓器の機能に著しい障害を残し、随時介護を要するもの	種 29,290円～54,000円
(別表第2)		
	神経系統の機能又は精神の障害 3級2号 5級2号 7級4号 9級10号	
	胸腹部臓器の障害 3級4号 5級3号 7級5号 7級13号 8級11号 9級11号 9級16号 11級10号	非該当

注) 緑色部分は介護料支給対象となる後遺障害を表している。

- 短期の治療等を目的として病院等に入院（所）した、４４１人の短期入院者に対して、患者移送費、室料差額負担金及び食事負担金の費用の助成を行った。

短期入院費用助成実績



短期入院費用の助成制度

入院日数	年間支給日数	日当たり支給額	年間支給限度額
1回あたり2日以上 14日以内	30日以内	10,000円以内	300,000円

助成対象者：全ての介護料支給対象者

その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

- ・ 重度後遺障害者及びその家族に対する、経済的支援の見直しについて検討を行い、介護料支給対象となる介護用品として消耗品（紙オムツ・尿取りパッド及び痰吸引用カテーテル）を追加するとともに、短期入院費用助成制度の利用要件を緩和することとし、平成19年度から実施することとした。
- ・ 「ほほえみ」の紙面を通じて短期入院費用助成制度及び短期入院協力病院に関する情報提供を行う。

（中期目標）

重度後遺障害者に対し、被害者の状況に応じた介護料の支給を実施するとともに、介護に関する指導助言等により、重度後遺障害者及びその家族に対する支援を強化すること。

（中期計画）

介護に関する相談窓口を主管支所に設置し、介護福祉士等による介護に関する知識・技術の提供等重度後遺障害者の家族に対する相談支援を効果的な広報と併せて実施するとともに、療護センターと連携し、5段階評価の調査における重度後遺障害者の家族への相談支援に関する評価度について、中期目標期間の最後の事業年度までに4.0以上とする。

（年度計画）

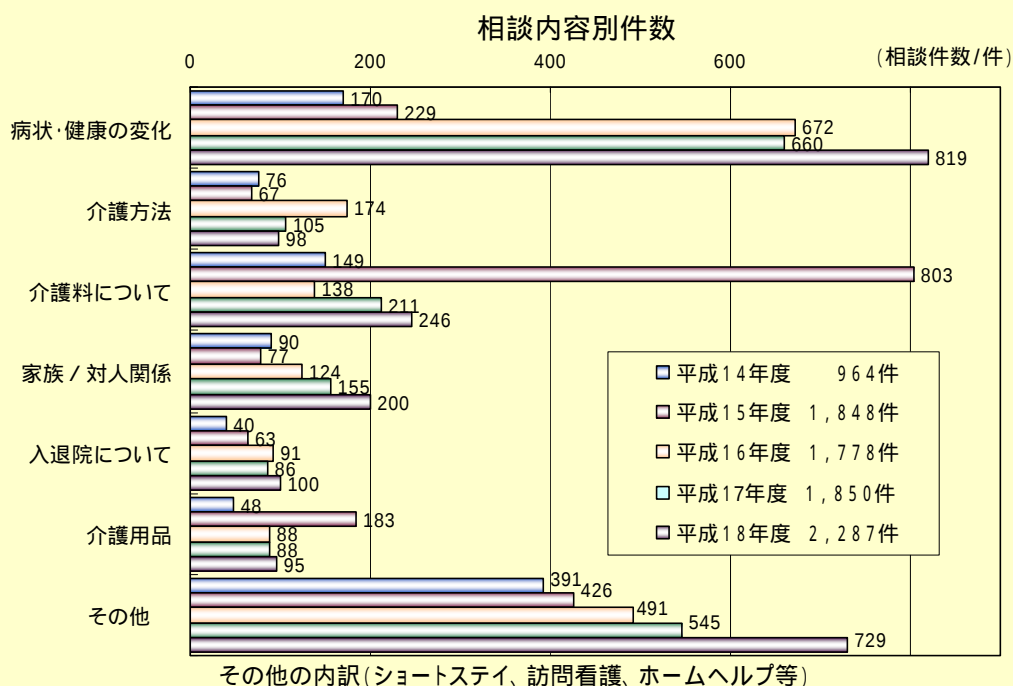
介護相談窓口の相談時間を2時間から4時間へ延長し、引き続き、介護福祉士等により積極的な相談支援を行うとともに、窓口寄せられた相談内容から被害者のニーズの高い情報について、療護センターと連携を図りつつ、「介護だより」を通じて提供する。「介護だより」について、発行回数を年2回から4回に増やし、患者家族が各種情報を共有できる紙面の新設等の改善を図る。これらの措置を講じることにより、5段階評価の調査における重度後遺障害者の家族への相談支援に関する評価度（平成18年度）について、4.0以上とする。

年度計画における目標値設定の考え方

- 本部に介護相談ゼネラルアドバイザーを配置し、全主管支所に設置している、介護に関する相談窓口相談員に対し、総括的な助言を行い、重度後遺障害者及び家族に対する相談支援を療護センターと連携して効果的に実施するとともに、機関誌「ほほえみ」（旧称「介護だより」）を通じて各種の情報提供をすることとした。
- 介護相談窓口の相談時間の延長（2時間→4時間）及び「ほほえみ」の発行回数の増回（2回→4回）により、相談支援の充実を図ることとした。
- 評価度4.0を獲得することとした。

実績値

- 全主管支所において介護相談窓口の相談時間を延長（2時間から4時間）し、介護福祉士等による2,287件の介護相談を実施した。



- 介護相談窓口に寄せられた相談内容から、被害者ニーズの高い内容（病状・健康の変化及び介護方法）をテーマに選択し掲載。

テーマ	内 容
療護センターと連携した介護情報の提供	・ 音楽療法の紹介（春号 中部療護センター） ・ 口周囲のマッサージの大切さ（春号 千葉療護センター） ・ 食事自助具の紹介（秋号 中部療護センター） ・ 酢水を使った胃ろうチューブの汚れ防止 (秋号 千葉療護センター) ・ 床ずれ防止用具の選び方(冬号 介護相談ゼネラルアドバイザー)
患者・ご家族とのふれあい	・ 在宅介護を行っている方々からの自由な投稿を「ふれあい広場」に掲載し、家族間相互のコミュニケーションを図った。
自分のほしい有益な情報	・ 在宅介護相談窓口に寄せられた質問事項とその回答を紹介 ・ 教えてください(患者家族間の有益な情報交換)
介護に活用できる有益な情報及び日常の介護への活用度	・ 在宅介護相談窓口相談員から情報提供を受け掲載
短期入院病院	・ 短期入院協力病院一覧 ・ 短期入院利用者の声

紙面の充実	- 療護センターと連携した介護情報の提供のより一層の充実 - 介護相談ゼネラルアドバイザーからの在宅介護に関する相談及び各種情報提供の紹介
-------	--

読者が書いた絵画展

岡村佐一さん

おむつ交換への応用

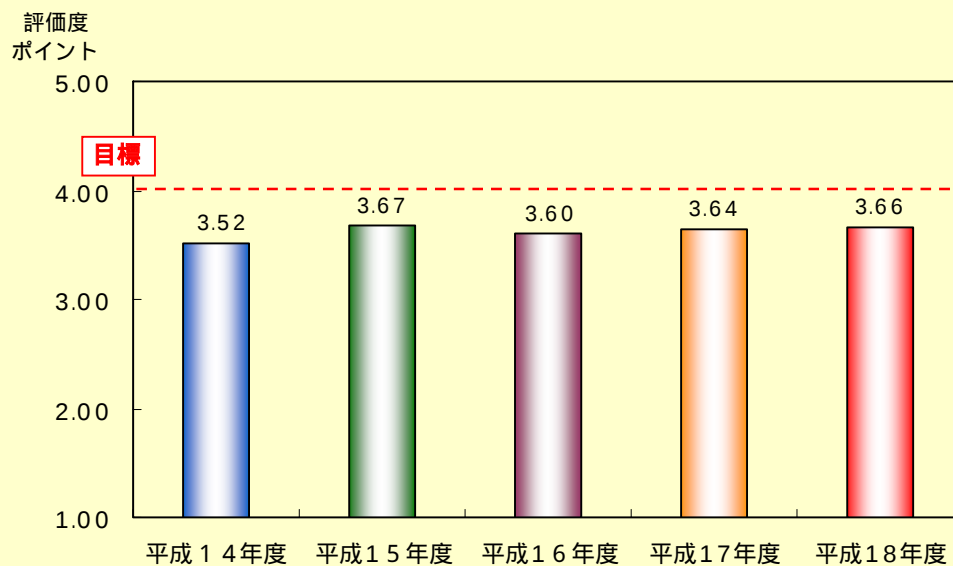
読者の意見が分かれたのはいつからですか?

おむつ交換への応用

- 重度後遺障害者の家族の評価度

4.0を下回ったものの、平成17年度より0.02ポイント向上させた。

重度後遺障害者の家族における相談支援に関する評価度

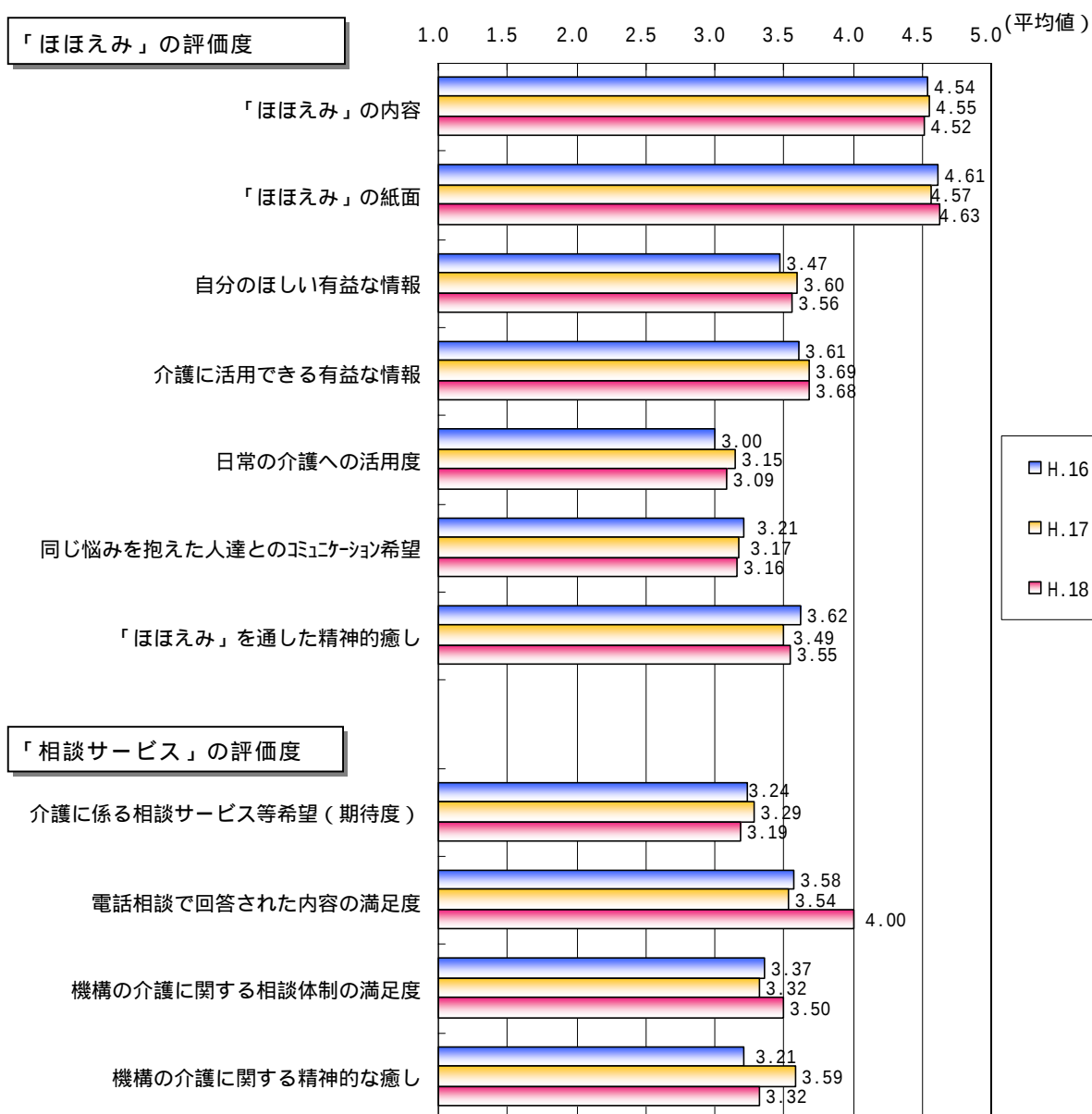


【調査の概要】

- ・ 調査期間：平成 19 年 3 月～
- ・ 調査対象：平成 19 年 2 月末現在の介護料受給者のうち、特 種（P 8 9 参照）の家族
- ・ 調 査 数： 959 件
- ・ 回 収 数： 716 件
- ・ 回 収 率： 74.7%

特 種以外の 種・ 種（P.8 9 参照）の者は平成13年7月の制度改正後、新たに支給対象となったことから、過去の施策との経年比較が困難であるため含んでいない

相談支援に関する項目別評価



実績値が目標に達しない場合にはその理由

重度後遺障害者の家族への相談支援に関する評価度について、4.0以上とする目標に対し、評価度が3.66となった理由としては、被害者及び家族が、日常生活において身近に必要としている要望、すなわち後遺障害の状況（損傷部位及び資格種別等）により異なる様々なニーズに対する各種情報提供等の不足が理由であると考え、次年度以降は次のとおり取り組みを図る。

- 「ほほえみ」について
 - ・ 後遺障害の状況（損傷部位及び資格種別等）により異なる様々なニーズに合わせた情報発信をする。
 - ・ 「ほほえみ」の紙面及び精神的癒しについては、受給資格者等の皆様が相互に共有できるための紙面（短期入院利用者の声・ふれあい広場・教えてください）及び受給資格者やそのご家族からの作品（絵画・俳句・写真）等の掲載により紙面等の充実を図り、また、各療護センターからの介護に関する情報の発信、及び本部に配置した介護相談ゼネラルアドバイザーの専門的分野の精神的支援面における情報提供を行ったことにより、評価は上がった。
 - ・ 評価度の下がった「ほほえみ」の内容、自分のほしい有益な情報・日常介護の活用度・同じ悩みを抱えた人達とのコミュニケーション希望については、受給者資格者等の要望に対してより一層の内容充実を図り各種情報の提供をする。
- 「相談サービス」について
 - ・ 電話相談で回答された内容の満足度・機構の介護に関する相談体制の満足度は、「介護相談窓口」における相談時間の延長（2時間→4時間）・介護相談ゼネラルアドバイザーを配置したことにより、より専門性の高い相談についても千葉療護センターと連携して介護相談員が相談者に的確な相談対応ができるようになったため、満足度評価は上がった。なお、引き続き介護に関する知識・情報の提供・及び相談サービスの充実を図る。
 - ・ 介護に係る相談サービス等の希望(期待度)・機構の介護に関する精神的な癒し、については、評価が下がっているため、介護相談窓口をとおして必要に応じた「支援」と「フォロー」・情報の提供を図ると共に、次年度からフェイストゥフェイスによる訪問支援サービスを実施することにより、在宅介護に関する各種相談等に対する精神的支援を図る。

その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

(4) 交通遺児等に対する支援業務

(中期目標)

交通遺児等に対し、必要な育成資金の無利子貸付けを実施するとともに、精神的支援を強化すること。

(中期計画)

被害者の状況に応じた無利子貸付けを行うことにより、効果的な被害者救済を図りつつ、保護者同士の交流の場の設置等により被害者家族相互の親睦を深め、交通遺児等の健全な育成を図る精神的支援を強化する。被害者に対する調査を実施し、5段階評価における精神的支援に関する評価度について、中期目標期間の最後の事業年度までに4.0以上とする。

(年度計画)

引き続き、交通遺児等に対して経済的な支援を目的とした無利子貸付けを行うとともに、同制度の利用対象者の保護者や子供たちの交流の場である「友の会」を運営し、「友の会だより」を発行するとともに、「友の会の集い」や「絵画コンテスト」を全支所において実施することにより、精神的支援を強化する。

これらの措置を講じることにより、被害者に対する5段階評価の調査における精神的支援に関する評価度(平成18年度)について、4.0以上とする。

年度計画における目標値設定の考え方

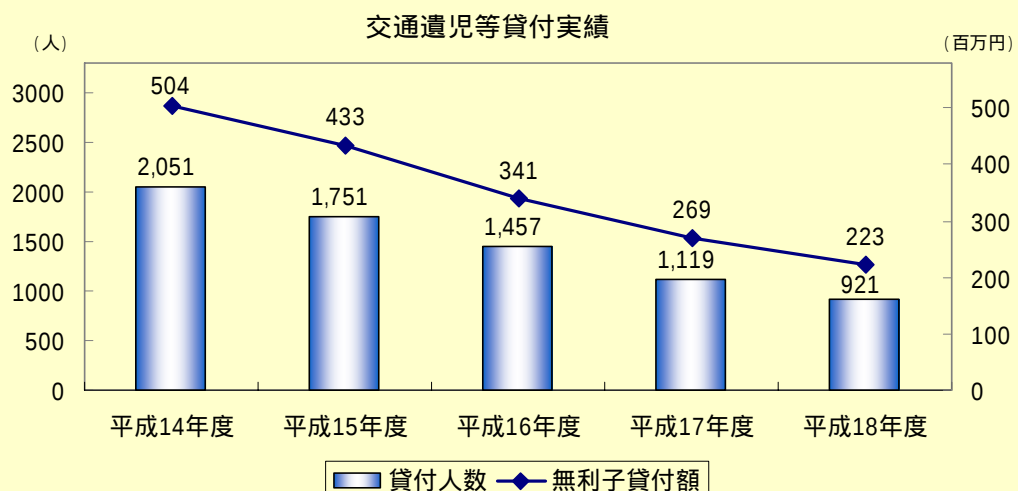
- 経済的支援を目的とした無利子貸付けを行うとともに、被害者家族相互の親睦を深めるため、「友の会」を運営し、「友の会だより」の発行、「友の会の集い」の実施、「絵画コンテスト」の開催等の精神的支援を充実させることとした。
- 評価度4.0以上を獲得することとした。

実績値

- 交通遺児等921人に対し、計2億2,300万円の無利子貸付けを実施した。

交通遺児等貸付の実績

項 目	貸付人数	無利子貸付額
平成18年度	921人	223百万円



- 交通遺児等貸付制度の利用者及びその保護者等を対象とした「友の会」を運営し、下表のとおり、精神的支援の方策を実施した。

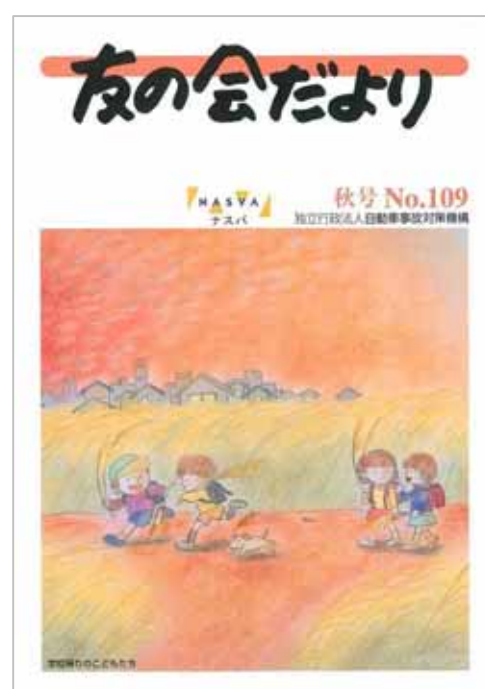
精神的支援の実績

実施事項	概要
友の会の集い	・ 全国50支所において交通遺児等の相談を受けている家庭相談員のサポートのもと「友の会の集い」を実施し、1,426人が参加。 ・ その他、企業や他の団体からの招待により、「友の会の集い」を実施し、518人が参加。
友の会だより	・ 第107号から第110号を四半期ごとに各5,430部発行し、各家庭に送付。
絵画コンテスト	・ 平成18年7月28日～平成18年10月28日を応募期間として開催し、応募作品366点の中から82点の入賞作品を選抜し、本部及び各支所において受賞者に対する表彰式を実施。その後、国土交通省ロビーでの展示をはじめ、各主管支所、交通安全に関するイベントなどでも展示を行った。

友の会の集い



「友の会だより」



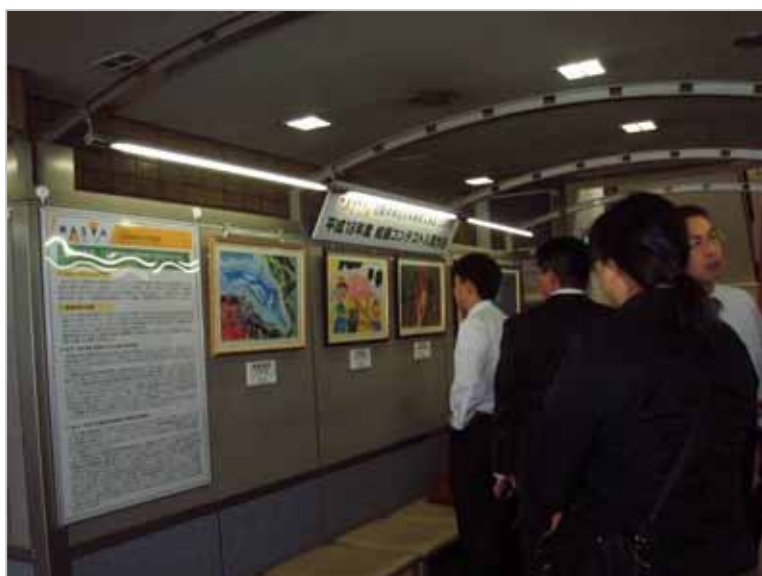
絵画コンテストの最優秀賞作品



絵画コンテストの受賞者



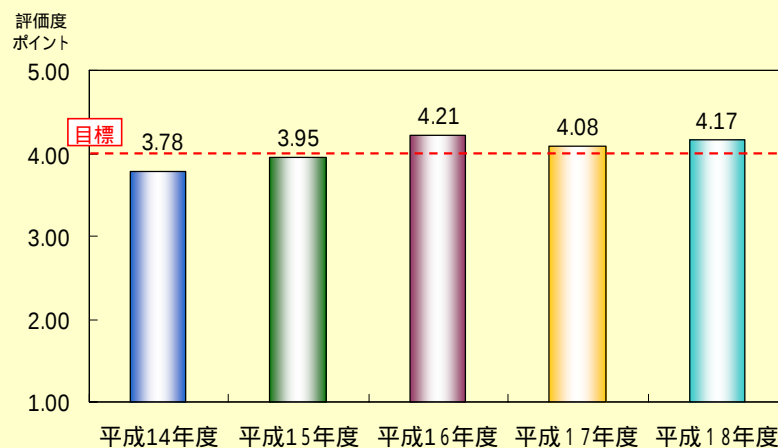
国土交通省ロビー展示風景



○ 友の会会員の評価度

平成17年度より、0.09ポイント向上させ、4.17の評価を得た。

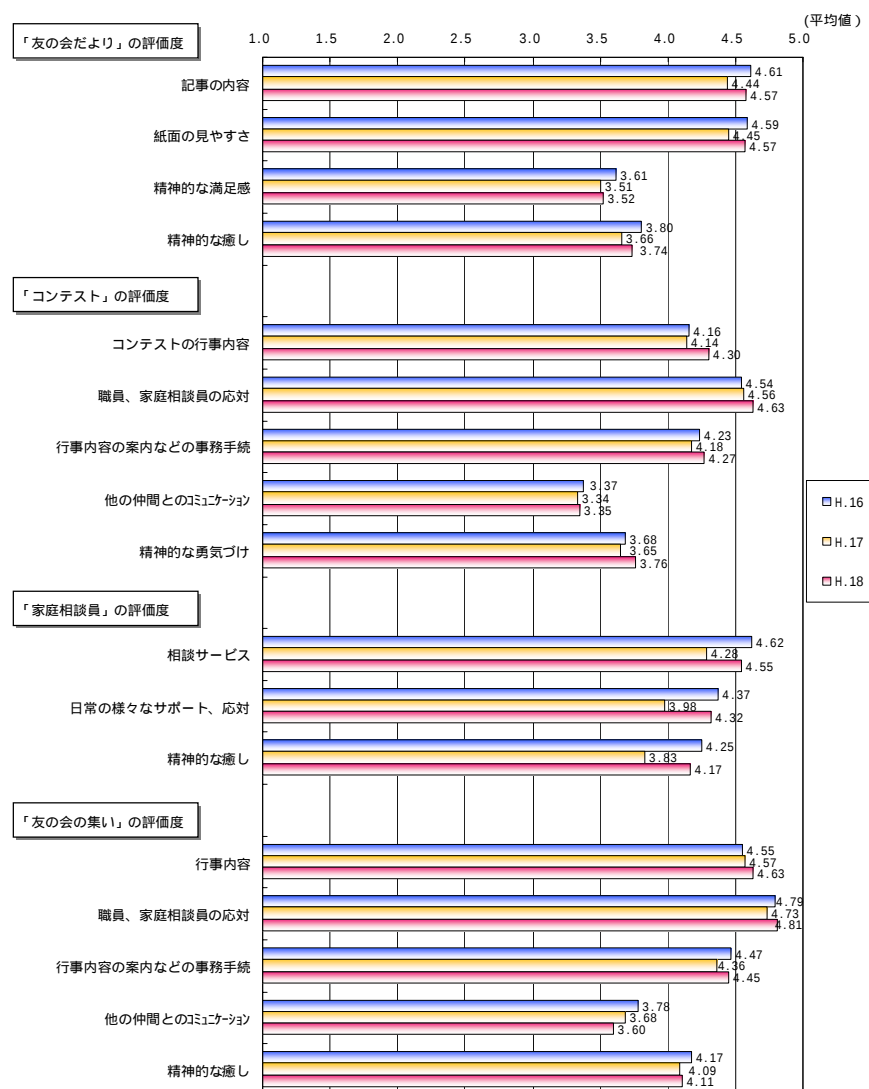
被害者における精神的支援に関する評価度



【調査の概要】

- ・調査期間：平成19年3月～
 - ・調査対象：友の会会員世帯
 - ・友の会会員世帯数：3,176件
 - ・調査数：624件
 - ・回収数：315件
 - ・回収率：50.5%
- (19年5月9日時点)

精神的支援に関する項目別評価



実績値が目標に達しない場合にはその理由

その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

読売巨人軍の二岡智宏選手や(株)コスモ石油等の支援を得ながら、野球観戦やキャンプ等への交通遣児等の招待により、精神的支援の充実を図った。なお、今後とも、企業等の支援を得ながら更なる精神的支援の充実を図っていく。

(株)コスモ石油主催の第14回「わくわく探検隊」



仙台個人タクシー事業協同組合有志の会「でんでん虫の会」との協賛による
「溪流釣りを楽しもう」

